

2005年6月18日から2日間の日程で愛知万博及び中部国際空港の見学会を行った。

愛知万博は自然の叡智をテーマに据えた万博で環境問題や最新技術の結晶を目の当たりに出来、テーマがダイレクトに入ってくるイベントであった。

建築の設計を行うものとして最大の関心事は愛知の森の中で万博を行うことさえ反対を受け何度も計画変更を余儀なくされ開催に至った経緯を知るだけにどのようにテーマ作りを行いそのテーマに対しての回答を導き出すのかという点であった。

ハード面ではグローバルコモンやグローバルループについて廃木材や廃プラスチック、愛知県産の杉の間伐材を利用しており、各パビリオンについてもリユースの観点や環境負担の軽減の観点で計画がされている。

ソフト面では地球規模の環境問題、テクノロジー、遺産等を最新の映像技術や趣向を凝らした展示で体験的な紹介を行っている。

そのなかでも万博会場において切り離せない考えのものがソフトとハードをつなぐ役割を担っていた。バイオラングの巨大な壁面緑化や大地の塔から噴出される霧状の水、そのものだけで完結しないで周囲に影響を与えている。設計をする上で建物の観点から見すぎてしまうが周囲に与える影響を考え外部と建物の境界のない新たなつながりを感じることが出来た。

敷地内の空中歩廊のグローバルループは全てのグローバルコモンを結び、自然の中に分散配置された各パビリオンを結び、自然を感じながらの各テーマへの動線は中心のない都市のような感じもしくは巨大な建築物のようにさえ感じられた。外部と内部とのつながり、自然と建築のつながり、相反するものともものつながりを感じられた点で今後の設計に生きてくると考えている。